



学園創立75周年を記念して校舎の改築に取り組んでいる。時代は

少子化、過疎化の真ただ中。そんな大工事をして大丈夫かと、当然すぎるご心配を頂くが、学校は

継続が前提とすれば築50年過ぎての建て替えは自然の流れ。始めてしまったので後には引けない。

課題は新校舎の建

「夢」への懸け橋



草野 義輔

んだ。早速行政に相談に行く。諸条件はあるが、全てクリアできれば認可は可能とのこと。ならばと設計を全面的に見直して着工に至った。

新校舎も斬新な設計だが、公道をまたぐ専用歩道橋は、完成すれば相当に目立つものになるだろう。去る8月下旬に夜間の通行止めをして架橋工事が行われた。めったに見ることはできないとのこと、深夜見学に向いた。

築場所と築10年の体育館との接続方法であった。当初はグラウンドを用地とする案が有力で模型まで作製してみた。だが、2年間グラウンドが使えなくなるのでは教育上も支障が大きい。

検討を重ねていくうち、公道上に渡り廊下があればグラウンドはそのまま使えるという発想が浮か

構想から5年余り。クレーンで枠をつり上げ足場に載せて固定するだけの工程だったが、当事者としては深い感慨を持って工事を眺めた。また外枠だけとはいえず、それでもかなりの存在感がある。

新校舎完成まで残すところ半年。「夢」への橋が懸かった。

(昭和学校園高校理事長・日田市)